

5 目標達成状況を評価する指標

本計画では、短期目標（P.25）を達成することを目標とし、その目標を達成するための取組を3つの視点ごとに分類し実施していきます。

これら3つの視点について、計画の進捗度合いを分かりやすく表し、適切な進行管理を行うための指標として、それぞれの視点ごとに下記のとおり、環境などの状態を示す評価指標や事業の進捗状況を示す取組指標を設定し、目標達成に向けて計画を進めていきます。

I 水質改善・水量回復

<評価指標>

● 水質（手賀沼）

COD（75%値）	:	9. 6mg/L（H22）	→	8. 8mg/L（H27）
T-N（年平均値）	:	2. 5mg/L（H22）	→	2. 4mg/L（H27）
T-P（年平均値）	:	0. 16 mg/L（H22）	→	0. 14mg/L（H27）

<取組指標>

取組指標	現状 (H22)	目標値 (H27)
下水道普及率 (P.30)	88. 4%	91. 8%
通常型合併処理浄化槽 の整備 (P.31)	1,681 基	1,943 基 (262 基増)
高度処理型合併処理浄化槽 の整備 (P.31)	560 基	898 基 (338 基増)
市街地等初期雨水 浄化対策 (P.32)	1 箇所 99,000m ³ /年	1 箇所 99,000m ³ /年
水路しゅんせつ (P.38)	6,952m ³	7,852 m ³ (900m ³ 増)
水路清掃 (P.38)	205km	280km (75km 増)
道路・事業所等透水性舗装 の整備 (P.40)	86,585m ²	106,677 m ² (17,092m ² 増)
雨水浸透施設の設置 (P.41) (浸透マス、浸透トレンチ)	20,120 基	24,355 基 (4,235 基増)
調整池の清掃*	—	856 m ³

※「第6期手賀沼に係る湖沼水質保全計画」より

II 生物生息環境の保全

<評価指標>

- 水生植物の復活や水鳥の増加に繋がる環境づくり

<取組指標>

取組指標	現状 (H22)	目標値 (H27)
植生帯の整備 (P.39)	2箇所整備中 (高野山新田、若松)	1箇所整備中(高野山新田) 1箇所整備完成(若松)
多自然川づくり (大津川) (P.43)	4.48km	5.15km (0.67km 増)
カモ科*	2,244羽※	現状(H22) より増加
手賀沼で記録された 水鳥の種類数**	32種 (6目9科)	現状(H22) より増加

※「ガンカモ類の生息調査」(環境省)

※※「手賀沼の水鳥個体数調査」(我孫子野鳥を守る会)

III 人と水との関わり合い強化

<評価指標>

- 手賀沼とその流域に対する意識の向上や一人ひとりの主体的な行動の増加

<取組指標>

取組指標	現状 (H22)	目標値 (H27)
手賀沼統一クリーンデイ 参加者数 (P.38)	約730人	現状(H22) より増加
手賀沼流域協働調査 参加者数 (P.42)	310人 (湧水・河川)	現状(H22) より増加
手賀沼流域フォーラム 参加者数 (P.46、47)	約500人	現状(H22) より増加
“手賀沼とその流域”をテーマと した環境学習の実施 (P.46)	〇〇校 (小・中学校)	現状(H22) より増加
一般家庭における ろ紙袋の使用率*	81%	現状(H22) より向上

※湖沼水質保全に関するアンケート調査

6 新たな指標による取組について

手賀沼とその流域の生態系や水質汚濁のメカニズムについて、未解明の部分が多くあることから、研究機関・研究者の連携のもと解明に向けて取り組むとともに下記に示す「新たな指標の検討」や「手賀沼とその流域における水環境の状況把握や情報の共有」を実施していきます。

- 新たな指標の検討（水質項目・現場測定項目）

従来、手賀沼の水質目標値（行政が目指す目標）は、湖沼水質保全計画で定めるCOD、T-N、T-Pにより評価を行ってきました。

今後、生態系を含めたより望ましい将来の手賀沼の姿を目指すため、その他の項目（SS、pH、TOC、透明度、下層DOなど）について継続的にモニタリングを実施していくとともに手賀沼とその流域の地域特性を勘案した新たな指標の設定について検討を行っていきます。

- 手賀沼とその流域における水環境の状況把握や情報の共有

手賀沼とその流域の生態系については、情報量が少ないことから住民、NPO、事業者、行政の協働・連携のもと、下記に示す調査等を通じて状況把握を行っていきます。

また、協働・連携による調査と併せて情報の共有を行うことにより、人と水との関わり合いの強化につなげていきます。

1) 手賀沼流域協働調査

平成15年度から手賀沼水環境保全協議会を中心に流域の住民、事業者、行政の協働・連携のもと、身近な地域の湧水や川の実態を調べることを通じて、水環境の実状と問題点などを知り、健全な水循環回復に向けた具体的な取組みの実践につなげることを目的とした「手賀沼流域協働調査」を実施しています。

手賀沼流域協働調査で作成した水環境マップ等について、本計画の目標達成状況を評価する情報として活用していきます。（P.42 参照）

（参考）手賀沼水環境保全協議会 HP アドレス
(<http://www.tesuikyo.jp/>)

2)水生生物による水質調査（千葉県全域）

小・中・高校生や一般県民などが、川にすむ生き物を採集し、その種類（指標生物）により水のきれいさを判定する調査を通じて身近な川の環境を知ってもらい、また、水質保全への意識を高めることを目的とします。

本調査で得た結果は、手賀沼・流域の水質等の長期的・複合的な評価を行うための情報として活用していきます。

（参考）千葉県環境研究センター水質環境研究室 HP アドレス
水生生物による水質調査
(<http://www.pref.chiba.lg.jp/wit/suishitsu/suiseiseibutsu.html>)

3)みんなで川を見てみよう（千葉県版水環境指標調査）（千葉県全域）

河川、湖沼の水質の評価は、従来から河川ではBOD、湖沼ではCOD等が用いられてきました。

近年、水環境を水質だけでなく幅広い観点からとらえて、水環境の豊かさも表現できる指標が求められており、県では新しい指標として、BOD、COD といった水質環境項目だけではなく、河川・湖沼の自然なすがたや生き物の生息状況、水辺の利用状況などから総合的に、また、誰でも簡単にできる評価方法について検討を行っています。

本調査で得た結果は、手賀沼・流域の水質等の長期的・複合的な評価を行うための情報として活用を検討していきます。

（参考）千葉県環境研究センター水質環境研究室 HP アドレス
みんなで川を見てみよう（千葉県版水環境指標調査）
(<http://www.pref.chiba.lg.jp/wit/suishitsu/suiseiseibutsu.html>)

7 望ましい将来の手賀沼とその流域の姿（案）

- 自然環境
 - 適切に管理された里山、谷津田、斜面林
 - 湧水涵養域の保全
 - 自浄能力の向上
 - 自然と人間との共生
 - 身近な手賀沼へ

- 漁業・農業
 - 豊かな漁場の形成
 - 適正施肥や環境にやさしい農業の推進や取組の拡大
 - 生体基盤として機能した水田

- 生態系
 - 地形に応じ繁茂した水生植物
 - 多様な生態系

- 水質
 - 透明度の改善
 - 泳げる手賀沼
 - 汚濁物質や栄養分の流入、富栄養化などの問題の解決

- 人と水との関わりあい
 - 子供から大人まで住民の意識向上
 - 主体的に行動できる人づくりやネットワークづくり（地域密着型）
 - 住民一人ひとり主体的、積極的な行動
 - 環境学習の場として利用促進
 - ボランティア活動の促進
 - 行政、住民、NPO、事業者の連携

- その他
 - 手賀沼の活用
 - 水にかかわる伝統、文化の保護・継承
 - 調査・研究の推進

★みなさんで「望ましい将来の手賀沼とその流域の姿」を描いてみましょう。

